



あなたの詩を  
募集します!!



—第34回—

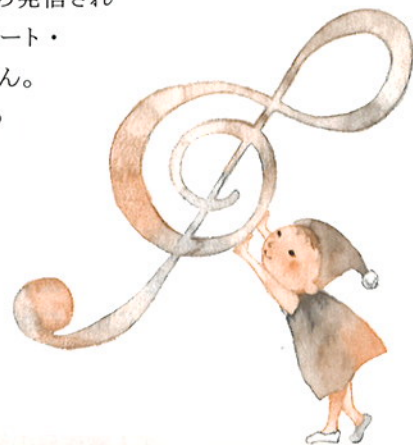
# 三木露風賞 新しい童謡コンクール

童謡「赤とんぼ」の作詩者三木露風の生誕地たつの市は、児童文化の風土づくりをめざして、昭和59年(1984年)10月7日に「童謡の里宣言」をしました。以来、童謡の振興と世代を越えて歌い継がれる新しい童謡の創造を目指し、(一社)日本童謡協会と(一社)龍野青年会議所と共に「新しい童謡コンクール」を実施し、「三木露風賞」を設けて広く全国に創作詩を募集しています。

このコンクールも歴史を重ね、今回で34回を数え、たつの市から発信された曲は80曲を超えるまでになりました。これらの歌は多くのコンサート・童謡祭等でも歌われ、全国各地で愛唱されている歌も少なくありません。

今年も“時を越え 世代をつないで 歌い継がれる童謡”の創造をめざし、広く全国の皆様から作品を募集します。子どもたちの豊かな情操や感性を育み、永く歌い継がれる童謡が「童謡の里・たつの」から発信出来ることを願い、皆さまからすばらしい作品が寄せられますことをお待ちしています。

※詩人三木露風の顕彰を一層明確にするため、創作詩のみの募集としています。



募集期間

平成30年

4月1日(日) - 7月1日(日)

(当日消印有効)

● 作品の送り先・お問い合わせ先

(公財)童謡の里龍野文化振興財団

〒679-4167 兵庫県たつの市龍野町富永  
たつの市総合文化会館 赤とんぼ文化ホール内  
三木露風賞新しい童謡コンクール係

TEL 0791-63-1888 FAX 0791-63-2026

主催：(公財)童謡の里龍野文化振興財団、日本童謡まつり実行委員会、たつの市・たつの市教育委員会  
(一社)日本童謡協会、(一社)龍野青年会議所

後援：NHK神戸放送局、たつの赤とんぼライオンズクラブ 協賛：(株)ラジオ関西

—第34回—

# 三木露風賞

## 新しい童謡コンクール



### 応募規定

- (1) 応募作品は、このコンクールのために創作された未発表の個人のオリジナル詩であること。
- (2) 形式・内容は、ともに自由で、一人3編以内とします。
- (3) 応募資格は、プロ、アマ、年齢、国籍を問いません。
- (4) 400字詰め原稿用紙(A4版)に、詩を縦書きにし、その裏面に必ず、郵便番号・住所・氏名(ふりがなをつける)・生年月日・職業・電話番号を書いてください。

【注】原稿用紙以外に書いたものは、無効となりますのでご注意ください。

なお、記入いただいた個人情報は、三木露風賞関係のみに使用します。

- (5) 審査料は、1編につき1,000円です。(ただし、高校生以下は無料とします。)
- (6) 応募期間 平成30年4月1日(日)～7月1日(日)童謡の日 <当日消印有効>
- (7) 審査により下記の賞を選び、入賞盾(賞状)及び副賞(賞金)を贈ります。

○最優秀賞	1編 50万円	○日本童謡まつり実行委員会賞 -財団設立30周年記念特別賞-	1編 5万円
○優秀賞	1編 20万円	○たつの赤とんぼライオンズクラブ賞	1編 3万円
○佳作	3編 各3万円	○赤とんぼの里奨励賞	若干編 図書券 1万円
○(一社)龍野青年会議所賞	1編 5万円	○努力賞(高校生以下)	若干編 図書券

※上記作品の中から、日本を代表する作曲家に作曲を委嘱します。

- (8) 9月下旬までに入賞作品を選考します。10月21日(日)に開催される「三木露風賞新しい童謡コンクール入賞詩発表会」で入賞作品の朗読と委嘱曲の発表を行います。
- (9) 審査料の振込(高校生以下は要りません。)  
郵便局の振込用紙をご利用ください。応募時に振り込んでください。  
(振込手数料はご負担ください。なお、振込請求書兼受領証は7月末まで保管してください。)

郵便振替口座番号：01110-8-65448

加入者名：公益財団法人 童謡の里龍野文化振興財団

- (10) その他
  - ①入賞作品の著作権は原作者にあります。主催者がこの作品の普及のために行う催し物、出版に関しては、権利を保有する場合があります。
  - ②応募後の作品についての個々のお問い合わせ等には、お応えできません。また応募原稿は返却いたしません。
  - ③入賞作品の発表は、10月上旬に、当財団ホームページ等で行います。  
入賞作品を掲載したプログラムをご希望の方は、切手500円(プログラム料、郵送料)を同封の上、事務局までご請求ください。(平成30年11月中旬に郵送します。)
  - ④審査結果は、10月中旬までにすべての応募者に通知します。

### 審査員

(一社)日本童謡協会の先生方

(詩人) 宮中 雲子、こわせ・たまみ、佐藤 雅子、武鹿 悦子

(作曲家) 湯山 昭、伊藤 幹翁、三平 典子 ※都合により、織江りょう先生から三平典子先生へ代わりました。